

## 主な質問と回答

Q.和戸交差点の右折帯を先行して整備してもらいたい。

A.和戸踏切除却（立体交差）事業の事業区域が確定した段階で踏切除却事業と併せて行っていく。

Q.踏切を除却する代わりに人が通れるアンダーパスを作ってもらいたい。

A.アンダーパスは大雨時に浸水する可能性や防犯上の問題があるため設置するのは難しい。

代替えとして備前堀川に人道橋を設置し、駅近くの踏切へのアクセス路を確保することにより線路の両側を平面で行き来できる計画としている。

Q.立体部分を横断するための歩行者用のトンネルを設置してもらいたい。

A.トンネルにアクセスするためには副道を横断する必要があるが交通安全上の懸念があるため、警察と協議の結果、設置しないこととなった。

Q.人だけが通行できる踏切を残すことはできないのか。

立体部分の勾配が9%あるので高齢者が通行するのは大変である。

A.踏切を除却することが事業の目的であるため、踏切を残すことはできない。

代替えとして備前堀川に人道橋を設置し、駅近くの踏切へのアクセス路を確保することにより線路の両側を平面で行き来できる計画としている。

Q.立体化されれば渋滞が軽減され便利になるので早く整備してもらいたい。工事着手と工事完了予定時期は。

A.用地買収完了後に工事に着手する予定である。現時点では、工事着手と工事完了予定時期は未定である。

Q.用地買収はいつ実施し、買収面積や補償額はいつわかるのか。

A.令和8年度に用地測量を行い、令和9年度以降に用地買収を行う予定である。補償など詳細については、物件調査後に個別に対応させて頂く。

Q.副道の拡幅幅が5mとなっているが、本線接続部分はもっと広がるのではないか。

A.5mの拡幅になるのは一般部であり、本線接続部分は車両が旋回する関係でさらに広がる。

Q.現状の通行車両による騒音・振動等がどの程度であるか調査を行い、立体化後どのように変化するかシミュレーションを行うべきである。

A.どのような対応が可能か検討させていただく。